



<講座報告>

E 読み書きの苦手な子供への学習支援のあり方～多層指導モデル MIM を活用して～

彦根市立城南小学校 片山真喜代先生

片山真喜代先生には、大支援研での M I M 講座第 3 弾としてご講演いただきました。実際に教室をイメージしたワークや参加者を少人数のグループに分け 4 社の国語教科書内容を比較するなど、たくさんの活動を通して学びを深めていきました。

最初に「めざせ よみめいじん」や「ことばさがし」のワークを行い、言葉の習得ついでのアセスメントを体験しました。そして、M I M を使うことで特殊音節が入っていくことを具体的な指導を紹介していただくことで体感していきました。

多層指導モデル M I M () は、異なる学力層の子供のニーズに対応した指導支援をしていこうとするモデルになります。子供が学習につまづく前に、また、つまづきが深刻化する前に指導支援を提供していくものです。多感覚を用いての指導となり、具体的には

- ①視覚——ドット、三角シート
- ②聴覚——早口言葉、うた
- ③運動感覚——動作化

以上 3 つのことを活用するために、動作化と視覚化がポイントになります。

指導の方法として、3 つのステージに分け、①1st ステージで「全員に対して」指導を行い、状況を見つめ、2nd ステージでは「それでも十分でない子供」に注目しながら取り組み、さらに「まだ十分でない子供」にた 3rd ステージの指導と、段階的に行っていく。

実際に M I M のデジタル版を提示しながら、指導を再現してくださるなど、わかりやすく、すぐ使える、使いたいと思えるご講演ありがとうございました。